

# 横浜ピアスタッフ協会事業報告書

2017年度

# 目次

はじめに 設立の目的、経過、この一年間の重点活動目標、その評価等

横浜ピアスタッフ協会  
副会長 瀧沢賢広

## (1) 活動報告

1) 事務局会議

2) 定例会

3) 第一回神奈川ピアまつり

4) 横浜退院促進ユニオン(YTU)

5) 精神科病院での普及啓発事業

6) 学校等への講師派遣事業

7) 関係団体との連携事業

『第6回全国ピアスタッフの集い』の実行委員会への参加

リカバリーパレード『回復の祭典』in 横浜、実行委員会への参加

8) その他事業

統合失調症薬物治療ガイドライン簡易版作成委員会への参加

出版プロジェクト

9) 結び 横浜ピアスタッフ協会 会長 住友健治

## (2) 参考資料

1) 横浜ピアスタッフ協会憲章

2) 役員名簿

3) 新聞記事等

横浜ピアスタッフ協会事務局  
シャロームの家  
〒235-0023  
横浜市磯子区森 3-7-23  
電話&FAX 045-752-5958

## はじめに

精神保健福祉分野において「ピアスタッフ」という言葉は年々存在感を増しているが、その期待度に反して普及は十分に進んでいないというのが現状である。横浜ピアスタッフ協会（YPS）は、係る現状の元、横浜がピアスタッフの生まれやすい街になることを目指し平成 27 年 11 月に設立された。

YPS は参加自由の隔月一回の事務局会議にて活動内容を審議・決定し、事務局会議の開かれない月に一回行われる定例会を主軸として活動を続けている。定例会の内容としては講師を呼んでの座談会、テーマを複数設定してのワールドカフェ、またレクリエーションに近いもの等バラエティに富んだ活動をしている。

また、定例会とは別に「神奈川ピアまつり」に代表される各種イベントの企画運営、精神科病院等での普及啓発活動等にも取り組んでいる。

外部の団体が企画運営しているイベント等にも実行委員の派遣、当日の参加等で協力をしている。

これら活動の詳細については後述を参照されたい。

今後の YPS としては、活動のますますの活発化を目指し会員の増加を図りつつ、会員を飽きさせないイベントを今後とも数多く企画運営し、当事者・医療福祉関係者・その他有志の力を結集することによってピアの土壌を強固なものにし、前述の横浜をピアスタッフの生まれやすい街にすることを目指していくものである。

横浜ピアスタッフ協会（YPS） 副会長 瀧沢賢広

## 事務局会議実施報告

平成 29 年 5 月 12 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：23 名  
決議内容： 第一回神奈川ピアまつりの詳細について

平成 29 年 7 月 7 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：21 名  
決議内容： 8 月の定例会の内容について

平成 29 年 9 月 1 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：23 名  
決議内容： 10 月の定例会の内容について

平成 29 年 11 月 10 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：25 名  
決議内容： ピアスタッフ養成講座、12 月の定例会について

平成 30 年 1 月 12 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：28 名  
決議内容： ピアスタッフ養成プログラム、第二回神奈川ピアまつりについて

平成 30 年 3 月 2 日（金）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：29 名  
決議内容： ピアスタッフ養成プログラム、第二回神奈川ピアまつりについて

協会の運営について話し合う場として、事務局会議を 2 か月に 1 度開催している。

会場は、事務局機能を担うシャロームの家で、各種各方面の活動内容、進捗状況を確認し、これからの活動について意見を交わし決議する場である。

リカバリーパレードや全国ピアスタッフの集い等、外部の大規模なイベント運営に関わる際の話合いも主にここで行われた。

## 定例会実施報告

平成 29 年 4 月 7 日（金） 18:45～20:45 会場：磯子区生活支援センター 参加者：40 名  
「今夜はシリアス」

平成 29 年 6 月 16 日（金） 18:45～20:30 会場：健康福祉総合センター4 階ホール 参加者：  
220 名 「第一回神奈川ピアまつり！」

平成 29 年 8 月 4 日（金） 18:45～20:45 会場：磯子区生活支援センター 参加者：36 名  
「磯子ピアまつり！」

平成 29 年 10 月 6 日（金） 18:30～20:30 会場：健康福祉総合センター8 階会議室  
参加者：45 名  
「私たちの津久井やまゆり園事件」出版記念シンポジウム

平成 29 年 12 月 1 日（金） 18:45～20:45 会場：磯子区生活支援センター 参加者：44 名  
「みんなでつくろうピアスタッフ養成プログラム」

平成 30 年 2 月 2 日（金） 18:30～20:30 会場：ウィリング横浜 参加者：60 名  
「今夜は恋愛 2」

YPS では、2 か月に一度、定例会を開催している。

会員の顔合わせの場として、内容は勉強会からグループミーティング、レクリエーション  
に近いものまで幅広く、その時にタイムリーなものを取りあげている。

YPS 活動の入り口として、活動に関心を持った人にまず参加してもらう会として、オープ  
ンで打ち解けやすい雰囲気で行っている。

## 第一回神奈川ピア祭り

2017年6月16日（金）18：45～20：45

横浜市健康福祉総合センターホールにて、開催。

参加者約 220 名

前座から華々しく、ピアピア踊りで幕開け。

開催時間 2 時間のうち

第 1 幕～第 4 幕ごとに分けて行った。

第 1 幕、第 4 幕では、当事者、支援者に関わらず、ピアについての熱い想いを 20 組ほどリレートーク形式で語って頂く。

第 2 幕では、「なぜ、ピアにこだわって研究するのか？」をテーマにピアに造詣の深い、聖学院大学の相川章子先生、国立精神・神経医療研究センターの種田綾乃先生、東京大学の宮本有紀先生にシンポジウム形式で語って頂く。

第 3 幕では、ピア祭り全員参加の醍醐味である、全体意見交換。テーマをもとにした、会場への質問で会場全体を巻き込む。活発に会場からも意見が出た。

「お祭り」「全員参加」「ためになる」をメインテーマに、楽しい雰囲気を参加者全員と共有し、ピアに対する理解を深めることにつとめた。

## YTU（横浜退院促進ユニオン）実施報告

第5回 YTU（横浜退院促進ユニオン）

平成29年10月11日（水）18:30～20:30 シャロームの家 参加者：19名

テーマ：「退院促進、地域移行のために、YTUに何ができるか、YTUで何をやりたいのか、それには今どうすべきか」

横浜退院促進ユニオン（略：YTU）では、退院促進と地域移行をテーマに、当事者、支援者、家族等様々な立場の人が集い、語り合いアイデアを出し合い、それを実践につなげていく場づくりを目指している。

社会的入院の解消に向けて、当事者、支援者、家族、医療、福祉、といった立場を越えて協力できないか。病院を開かれたものにするべく働きかけることは出来ないか。

2017年度に開催した第5回では、これまで議論してきたことを受け、自分たちの現状から具体的になにができるのか、について話を深めた。まずは精神科病院を知ること、そのためには精神科病院に足を運ぶことが大事ではないかと議論がすすんだ。非常に微力な活動であるが、参加者の多様性がつながりの力になることを願っている。

## 精神科病院での普及啓発

平成 29 年 10 月 27 日（金） 13:00～14:30 神奈川県立精神医療センター 院内研修 4 名の YPS メンバーが発表

平成 29 年 12 月 13 日（水） 18:00～19:00 兵庫県立淡路医療センター 精神科病院職員等研修会 『精神障害者・家族の SOS～暴力を防ぐために精神医療ができること』 1 名の YPS メンバーが発表



## 学校等への講師派遣事業

平成 29 年 7 月 31 日 (月) 12:50～14:20 横浜市立大学 社会福祉学講義 7 名の YPS メンバーが発表

平成 29 年 9 月 15 日 (金) 13:30～16:00 浜家連研修会 『家族への暴力という SOS 精神障がいを持つ当事者から学ぼう』 2 名の YPS メンバーが発表

平成 29 年 9 月 16 日 (土) 13:30～16:30 千葉家連研修会 『家族への暴力という SOS 精神障がいを持つ当事者から学ぼう』 2 名の YPS メンバーが発表

平成 29 年 9 月 29 日 (金) 13:00～14:30 川崎市立看護短期大学 精神看護学講義 2 名の YPS メンバーが発表

平成 29 年 11 月 30 日 (木) 17:00～19:30 上智大学 ダイバーシティーウィーク 特別講義 3 名の YPS メンバーがパネリストとして参加

平成 29 年 12 月 13 日 (水) 14:00～16:30 兵庫県洲本保健所研修『精神障害者・家族の SOS ～暴力について』 2 名の YPS メンバーが発表

平成 30 年 2 月 4 日 (日) 10:30～11:00 第 42 回 全国精神保健福祉業務研修会 in かながわ 分科会 2 実践報告「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」  
5 名の YPS メンバーが発表

平成 30 年 3 月 3 日 (土) 10:30～15:30 こころの健康づくりの集い in はんのう (埼玉県飯能市) 5 名の YPS メンバーが発表

精神障害当事者の生の声を伝えて欲しいという依頼に応じ、大学や短大の授業や、医療、福祉関係者や一般市民を対象とした研修会等に講師等を派遣している。普段、実際に当事者と接する機会があまりないという声は思いのほか多く、当事者が表に出ていくことの意義を感じる活動である。

## 関係団体との連携事業

### 日本ピアスタッフ協会主催「第6回ピアスタッフの集い」実行委員会への参加

毎年一回、晩秋から初冬に開催されるピアスタッフの普及啓発・交流等を目的とした全国規模の研修会「全国ピアスタッフの集い」は2017年度で第6回を迎えた。本会を開催するにあたり日本ピアスタッフ協会会員を中心に実行委員会が組織され、YPSからも会員6名が本実行委員会に参加した。

実行委員会は月一回程度のミーティングを中心に「全国ピアスタッフの集い」の内容を企画していき、当日の準備をしていった。

第6回「全国ピアスタッフの集い」は2017年12月9日-10日の日程で聖学院大学にて執り行われ、200名超の参加者を数えた。全体会において基調講演とシンポジウムを行い、10に分かれた分科会でピアスタッフを取り巻く状況等について情報交換・意見交換を行った。

### リカバリーパレードへの参加

当事者が自らの回復を祝い、回復の喜びを伝える祭典「リカバリーパレード」は全国で行われている。2017年には横浜で2回目の「リカバリーパレード」が行われた。

YPSからも延8名の会員が「横浜リカバリーパレード」の実行委員会に参加し、月一回程度のミーティングを中心に準備作業を進めていった。

YPS会員は事務局、広報、パレード企画、渉外、及びオリジナルTシャツ等のグッズの作成等を務めた。

2017年9月23日、約200名の参加者を集めて「横浜リカバリーパレード」は実施された。象の鼻パークにてエイサー（琉球太鼓）パフォーマンス、スピーチ等のアトラクションを行った後、参加者は隊列を組んで象の鼻パークを出発した。隊列は合唱やシュプレヒコールを行いながら南東方向に進み、山下公園石のステージまでの行程を40分ほどかけて行進した。

## その他事業

### 『統合失調症薬物治療ガイドー患者さん・ご` 家族・支援者のためにー』作成メンバーへの参加

統合失調症の薬物治療に科学的な根拠にもとづく一定の指針を示し、実際の診療の場面で判断材料の一つとして利用されることを目的として作成された「統合失調症薬物治療ガイドライン」。

それを基本的な内容はそのままに、当事者・家族・支援者向けによりわかりやすい表現に刷新した簡易版の作成に、YPS から統合失調症の当事者 5 名が参加した。

2018 年 2 月 27 日にインターネット上で公開。

書籍版が株式会社じほうより今夏出版予定。

## YPS 出版プロジェクト

2016 年度からスタートした、出版プロジェクト。

大阪大学准教授の蔭山正子氏による『精神障がい者の家族への暴力という SOS』の続編として始まった企画は、延 15 名の YPS メンバーが執筆に参加し、2017 年度ほぼ月に一回のペースで編集会議を行ってきた。

家族会やメディア関係者からも本づくりのプロセスに対して関心を寄せられ、制作が進むにつれ、当事者の立場から精神障がいについて発信する、という本のコンセプトを参加者で共有するに至った。制作は順調に進み、2018 年 6 月初旬に明石書店より『当事者が語る精神障がいトリカバリー』のタイトルで出版の運びとなっている。

## 結び

YPS が設立して、2年と少しになります。

いままで、いろいろな活動をさせていただきました。

2ヵ月に1回の定例会、本づくり、病院訪問、スポーツ  
などなど……………。

その他にも数え切れないほどのイベントがあり、

いろいろなところに行かせて頂いたり、

そして毎週金曜日の夜には、ほぼ何かしら

集まっていたように思います。

2年と少しで

本当に多くの方々と出会うことができました。

本当に感謝です。

その多くの方々が集まる中で、YPS は常に変化していきたくし  
刺激を受けることができましたと思います。

これからもいろいろな方々と出会うのだろうと思います。

いったい、どんな人たちと出会うのであろうか？

これからどんな YPS になっていくのであろうか？

まったく想像がつかないし、YPS はどこまでいくのであろう？

少し、興奮し、ものすごく楽しみです。

人と人とは集まり、触れ合い、話し合う中でいろいろなものが生まれてくる。

そして個人、個人も変化していく、それが YPS の醍醐味なのかもしれません。

まだまだ伸び盛りの YPS。

ぜひ、これからも YPS の活動に多くの方のご参加お待ちしております。

横浜ピアスタッフ協会会長

住友 健治

## 横浜ピアスタッフ協会憲章

- ・私たちは「仲間（ピア）」を何よりも大事に思います。
- ・私たちは「私」を何より大事に思います。
- ・仲間であると名のつた人はみんな仲間です。
- ・私たちはリカバリー体験を語る事が出来ます。
- ・私たちは私たちの想像力がどんな壁をものり越えると信じています。
- ・私たちは開かれた関係、開かれた場を創造していきます。
- ・私たちは仲間に対して常に真面目にかつ誠実であり、常におもしろくかつユニークな存在でありたいと願います。
- ・私たちは曖昧さ、自由、矛盾をこよなく愛します。

## YPS 横浜ピアスタッフ協会 役員名簿

会長 住友健治

副会長 瀧沢賢広

副会長 野間慎太郎

共同代表 荒木雅也

佐藤千春

田村大幸

飛田美幸

藤井哲也

山田潤

横浜ピアスタッフ協会 2017 年度事業報告書

2018 年 6 月発行

編集： 横浜ピアスタッフ協会事務局

シャロームの家

横浜市磯子区森 3-7-23

電話&FAX：045-752-5958

メール：shalom1@jupiter.ocn.ne.jp

# 精神障害当事者で支え合い

## 広げよう。ピアサポート

精神障害者が当事者性を生かして仲間（ピア）の精神障害者を支援するピアサポート活動を広げよう。第1回神奈川ピアまつり（Y.P.S.横浜ピアスタッフ協会主催）が16日夜、横浜市中区の市社会福祉センターで開かれた。県内を中心に関東一円から精神障害者、支援者ら約220人が参加。リレートークや全体意見交換などで熱い思いを語り合い、ピアサポートの重要性を訴えた。

（熊合 和夫）

ピアサポートの中でも、障害者施設の職員、精神科病院の相談員など、職業として支援にあたるピアスタッフも徐々に広がりを見せている。リレートークでは、施設職員のピアスタッフを中心に20組がステージに立ち、ピアサポートにかけける思いを語った。

「ピアスタッフになって居場所と役割を得た。ピアサポートはリカバリーに有効」「専門職のスタッフと協力して施設のメンバ―さんを支えて行きたい」「長期入院者の退院を助けてほしい」などと、活動の手応えと抱負が語られた。また、「精神障害の経験がプラスの価値になるなら、それを生かしたい」「自分にもできることがあると分かった。弱みが強みになることもある」「ピアサポートの意義を世間に知らしめたい」などと、力強い発言が続いた。

一方、全体意見交換では、「活動を知ら

ない行政職員もいる」などと行政の現状への懸念や、ピアサポートの支援力についての疑問の声も上がった。参加者は、活動の発展に向け、一層の取り組みが必要などを確認していた。

### 横浜 催しに220人



盛大な拍手でまつりの成功を祝った第1回神奈川ピアまつり  
＝横浜市社会福祉センター